

雨の日、晴れの日

狭山市立教育センター

所長 鈴木 浩明

梅雨の季節を迎えアジサイのつぼみが膨らみ、色づき始めました。自然の植物がたくましく伸びゆく様は、私たちに勇気と希望を与えてくれます。

草や木の成長にとってなくてはならないものが、雨の日であり、またよく晴れた日です。どちらもちょうどよいバランスで繰り返されるので、幹や枝は大きくなり、葉は勢いよく生い茂ります。もし、雨ばかり降っていれば、植物は根が腐って育ちません。逆に、晴れの日ばかりでも、水分がなくなって枯れてしまいます。このように、植物の成長には反対のものの同士が必要です。子供の個々の成長にも、雨と晴れのようにまったく反対のものがが必要です。それらは「やさしさ」と「きびしさ」です。

子供に対しやさしさだけで接すると、侮って言うことを聞かなくなり、うまくしつけができなくなります。

逆に、子供にきびしすぎると、気持ちがすさんだり、いじけたり、いらいらしたりして、うまくしつけができなくなります。

やさしすぎてもきびしすぎても、うまくいきません。

子供が正しいことをしたときは、どんどんほめましょう。「よくやった。偉いぞ！」
そういうときには、とことんやさしくなりましょう。すると子供は「そうか。こうすればいいのか」と理解します。逆に間違ったことをしたときは、きびしくなりましょう。「それはいけない。間違っている。」ただ叱るだけはよくありません。叱ると同時に「こうすればいい。」という正しい道筋も教えてあげるようにしましょう。

子供は、きびしく注意されたり、やさしくほめられたりすることによって、的確な判断ができる人に育っていきます。このようなことを繰り返し経験することにより、社会の一員として、自覚を持った人間に成長していくのだと思います。